

令和4年度 愛知県立一宮高等学校 学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>① 将来の目標をもたせて生徒の能力を最大限に伸ばすとともに、自律の精神を培って望ましい社会性を養う。</p> <p>② 多様な生徒へのきめ細やかな対応を組織的に行い、P T A、同窓会及び地域との連携により「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。</p> <p>③ 組織及び個人の両面におけるコンプライアンスを徹底し、不祥事防止に努める。</p> <p>④ 円滑な教育活動が推進できるよう、業務の見直しや校務の情報化等を一層進め、時間外在校等時間の縮減に努める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>総務</p>	<p>①広報活動の充実</p> <p>②防災意識の向上</p> <p>③保護者との協力体制の充実</p>	<p>・HP掲載の充実</p> <p>・防災教育の充実</p> <p>・P T Aの情報交換を密にする</p>	<p>・情報収集からHP掲載までの手順を明確にし、これまで以上の更新を各担当者へ定期的に促す。</p> <p>・防災避難訓練の新しい形を取り入れていく。また、それ以外にも生徒の防災意識を向上させるための企画を検討する。</p> <p>・引き続き役員会・理事会の場を有効活用するとともに、これまで以上に保護者からの声を集約できる方法を模索する。</p>
<p>学習指導</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」を目指す65分授業の充実</p> <p>②個々の生徒に応じた学習指導の確立</p> <p>③観点別評価の充実</p>	<p>・個々の教員が教科指導力を向上させつつ、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図る</p> <p>・多様化する生徒に対応しつつ、生徒が主体的に学習する姿勢を育てる</p> <p>・観点別評価を実践するとともに、必要に応じて改善を図る</p>	<p>・「授業参観週間」等により教員が相互の教科指導力向上を図るとともに、「学習指導マネジメントシート」及び「年間学習指導計画」等を利用して、学習指導におけるPDCAサイクルを確立し、授業改善を行う。</p> <p>・昨年度配備された80台の生徒用タブレットPCや、年度内に配備される1人1台の生徒用タブレットPCの効果的な活用について、研究と情報共有を進める。</p> <p>・必要に応じて家庭学習の方法を具体的に示すなど、生徒が家庭学習に向き合いやすくなるように工夫する。</p> <p>・増加傾向にある学校不適応生徒について職員間で情報を共有し、組織的に対応する。</p> <p>・単元の評価規準を必要に応じて改善したり、評価の結果を次の単元の指導に生かしたりするなど、観点別評価が生徒の学習改善や教員の指導改善につながるようにする。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>①基本的生活習慣の確立</p> <p>②安全確保の推進</p> <p>③規範意識の醸成</p> <p>④いじめ防止対策の推進</p>	<p>・欠席、遅刻、早退の理由を把握し、適切な指導を行う</p> <p>・生徒の安全を考え、組織的に対応する</p> <p>・生徒に交通安全に対する意識を高めさせる</p> <p>・予防的な交通安全活動に取り組む</p> <p>・マナー、モラルの意識を高めさせる</p> <p>・あいさつを励行</p> <p>・高校生らしい身だしなみを日常的に意識させる。</p> <p>・いじめの未然防止に係る取組を行なう</p> <p>・いじめの早期発見、適切な対応につながる方策をとる</p>	<p>・統計をとり、遅刻過多者に対して指導を行う。</p> <p>・遅刻が多くなると予想される時期には、遅刻しないよう意識させ遅刻の減少を図る。</p> <p>・防犯講話や事例を通じ、安全への理解を図る。</p> <p>・防犯マニュアルを活用して、組織的な対応を図る。</p> <p>・交通安全講話や広報活動等により、交通事故統計を活用して危険箇所を把握し注意を与える。</p> <p>・職員とP T Aとの連携による交通安全指導日を設け、危険箇所の街頭補導を行う。</p> <p>・生徒交通委員による安全マップの作成などを行う。</p> <p>・集会など一斉指導の場において、交通ルールの遵守、公共でのマナーについて理解させる。</p> <p>・日常的にあいさつの重要性について理解させる。</p> <p>・身だしなみについて生徒の自覚を促し、指導の組織化を図る。また、状況によっては、保護者との連携を図り、理解と協力を得る。</p> <p>・集会やL Tを通じ、生徒がいじめを主体的に捉える機会を設ける。</p> <p>・生徒観察およびアンケートを行なうことにより、いじめの抑止を図るとともに、早期発見の一助とする。</p> <p>・組織的な情報の共有、適切な事案対処を図るようにする。</p>

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導	<p>①進路実現に必要な学力の養成</p> <p>②個々の生徒に対応した進路指導体制の確立</p> <p>③進路に関する情報提供の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査の実施 ・補習・土曜講座の充実 ・進路アンケートをもとにした面談 ・入試情報交換会・進路検討会の充実 ・各種説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査により、深い思考力を測る。 ・補習・土曜講座を実施し、発展的な内容の知識を身に付けさせる。 ・実力考査ごとに進路アンケートを実施し、進路希望や自主学習時間等を把握する。 ・入試情報交換会・進路検討会を通して、生徒の状況を多くの教員で把握し、個に応じた指導体制をつくる。 ・学部・学科説明会、難関大説明会、東大見学会、社会人講演会を実施し、キャリアに対する意識を高めさせる。
生徒会活動	<p>①部活動の充実</p> <p>②生徒の力で作り上げる生徒会行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問会議と部長会議を有効活用する ・生徒会執行部を中心とした指導体制の確立 ・生徒の力で各種行事が運営できるように意識を高めていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動と学習との両立を実現させ、質実剛健の校訓の達成を図り、尾張の雄にふさわしい実績が残せるようにする。 ・生徒会執行部、各常任委員会の主体的な活動を図り、有効な助言を与える。
学校図書館	<p>①図書館の利用機会、利用者数の増加</p> <p>②利用しやすい図書館作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、LTでの図書館利用をよびかけ、広報活動、図書委員会の活動を充実させる ・利用しやすいよう館内の環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ・書評、教員や生徒の推薦本などの情報収集に努め、良書を配架する。 ・「図書たより」「新着図書案内」「図書館報」を定期的に発行し、読書の意欲を喚起する。 ・図書委員会の活動、企画行事を充実させる。 ・季節ごとのテーマを設定し、テーマにちなんだ本を来館者の目の留まりやすいように配架を工夫する。
学校保健	<p>①美化活動の充実</p> <p>②環境問題取り組みの充実</p> <p>③保健・安全教育の充実</p> <p>④保健・安全指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃・特別清掃の充実 ・ゴミの分別、古紙回収を徹底 ・生徒保健委員会活動の充実 ・心身の健康や安全指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃・大掃除では、特にトイレ清掃に重点を置く。特別清掃では、渡り清掃・側溝清掃を通して校内美化を推進する。校内外美化活動を通して地域美化の精神を養う。 ・教室等で生徒各自がゴミの減量・分別を行い、さらに、分別場所で清掃係がゴミ分別・古紙回収を行うことにより、美化意識・環境意識を一層高める。 ・生徒保健委員が、水質検査、温湿度測定、熱中症指標表示、各種ポスター作成、「保健だより」発行、放送によるコロナ対策の啓発などの活動を行い、学校全体に呼びかける。 ・教育相談、特別支援活動を、SCや担任と連携を取りながら進めていき、必要に応じてケース会議を行う。年3回のいじめ特別支援教育相談協議会において、対応を協議する。毎朝の健康観察実施により、生徒の健康把握に努める。また「保健だより」発行により、時期に合った保健情報を生徒に周知する。 感染症予防や夏季の熱中症予防についてはこれまでと同様に、学校全体の意識向上を図る。
SSH	<p>①探究力向上に向けたプログラム開発</p> <p>②SSHの成果の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究におけるPC(タブレット端末)の活用 ・課題研究の指導と各事業の繋がりを持たせたプログラムの開発 ・卒業生追跡調査の実施と分析 ・生徒の成果物の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が研究の記録を整理し、研究の過程で教員からの指導、助言が円滑に行われるようにクラウド情報の管理を行う。 ・教科の垣根を越え担当者間で連携し、事業の企画と運営に努める。 ・調査紙の回答率及び回収率を考慮し、実施時期を検討する。 ・これまでのループリック評価に合わせて、生徒の課題研究で作成した成果物(ポスター、レポート及びポートフォリオ)の分析を試みる。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
ファッション創造科	①各専門分野の専門的知識・技術の習得 ②創造力・表現力・判断力・実践力の育成 ③地域社会に貢献する人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションや保育に関する専門的知識・技術の習得 ・豊かなライフスタイルを創造する能力や実践力等の育成 ・地域社会が求める資質や能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野のスペシャリストを目指して、専門性を高め、個々の適性に応じた進路実現を図る。 ・校内外における研修や講習の充実を図り、コンテストに参加することで、能力を発揮できる力を養う ・インターンシップなどキャリア教育の推進を図り、地域社会の求める資質や能力を育成する。また、地域のイベント・事業への参加を通して教育活動の充実及び社会へのPR活動に努める。
1年	①基本的な生活習慣の確立による人間性の育成 ②主体的な学習方法の習得 ③将来を見据えた進路選択	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前の基本的な生活習慣を継続することで人間性を育成。 ・教えられるだけでなく学ぶことによる知識の習得 ・将来を見据えた文理選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や期限を守ること、交通安全マナーなど、基本的な生活習慣の大切さを認識させ、本校への帰属意識を高めて、自律した生活を送らせる。 ・高校生として自ら計画を立て、過程を重視した思考と理解を伴う学習ができるように指導する。 ・生徒が、卒業後を見越した目標を設定し、その目標達成に向けての学習のモチベーションが上がる授業を実践する。 ・部活動、学校行事に積極的に取り組ませ、「創造」する経験を共有させる。
2年	①自己管理能力の向上 ②高い進路目標と教養の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・社会的ルールやマナーの遵守 ・主体的な学習方法の確立 ・進路目標の探求、具体化 ・部活動や行事等への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや立ち居振る舞い等品位の育成と、社会的モラルや規範意識の向上を意識した指導を行う。 ・授業を第一とする姿勢を養い、予習・復習の習慣化による一連の学習サイクルを確立させる。 ・文理(普通科)、コース(ファッション創造科)が分かれた2年生として、興味関心の強い教科や専門分野に関する知識に基づいた進路を追求する機会を積極的に設け、職業観やライフプランを涵養させる。 ・部活動、学校行事、読書活動などに積極的に取り組ませることにより、他者と関わり、全人的な成長を促し社会の一員としての自覚や問題意識を高めさせる。
3年	①挑戦する心の育成、仲間との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・学力、思考力、表現力の向上 ・高い進路目標とキャリアの設定 ・教養と社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業を大切にさせる。 ・予習、復習を徹底させる。 ・自ら考える学習を身に付けさせる。 ・自分の考えを簡潔に表現する能力を身に付けさせる。 ・卒業後の進路を見据えた進路目標を設定させる。 ・専門分野に関する幅広い知識を身に付け、職業や人生について考えさせる。 ・学校行事等の様々な事業を通し、全人的な成長を促す。 ・主体的に行動する能力を向上させる。 ・集団におけるリーダーシップの育成と自己の責任感の定着を目指す。 ・社会的なルールやマナーを遵守させる。 ・社会人としての素養や判断能力を身に付けさせる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領がねらいとする学力観を意識した授業改善と、多様化する生徒に対応した学習活動の推進について ・生徒指導における基本的な生活習慣の確立について ・部活動と生徒会行事の充実について ・衛生委員会等による働き方改革の推進と、教職員の長時間労働による健康障害防止について 	